

社会科（公民的分野）学習指導案

平成〇〇年〇月〇日第〇校時
〇〇〇中学校3年〇組〇〇名
指導者 〇〇 〇〇 印

1 単元名 「現代社会をとらえる見方や考え方」

2 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領「公民的分野 2内容(1) 私たちと現代社会」の「イ 現代社会をとらえる見方や考え方」を扱っている。学習指導要領では、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、「対立と合意」「効率と公正」などについて理解させることが示された。

身近な問題を解決していく中で、社会生活における「対立」とそれが話し合いにより「合意」に至ることの重要性、さらにその合意が妥当なものであるかを、「効率」や「公正」という視点から判断することを通して、社会の枠組みをとらえ、社会に対する見方・考え方を高めることをねらいとしている。また、それらの概念を活用して、政治・経済・国際社会に関する様々な事柄や課題等を理解し、考え、判断することも求めている。

(2) 生徒観

本学級は積極的に発表する生徒が多く、社会的事象に対して興味や関心をもち、課題に対して意欲的に取り組んでいる。小テストや単元末テストにおいて知識を問う問題に関しては、高い正答率を獲得している。しかし、「なぜ」「どうして」という発問に答えることができる生徒が少なく、ワークやテストにおいても、理由や原因・結果を答える記述の問題を苦手としている生徒も少なくない。

また、中学入学時から、社会科において、少人数での話し合い活動やグループ学習を頻繁に取り入れてきた。しかし、活発に話し合いができる生徒もいれば、苦手と感じている生徒もいる。そこで、さらなる言語活動の充実を図る必要がある。

(3) 指導観

本単元は、公民学習の基本となる「対立と合意」「効率と公正」などの現代社会をとらえる見方や考え方を、各生徒へ確実に身に付けさせる必要がある。そのために、「シングルライダー」「ゴミ収集問題」など、生徒にとって身近な例を取り上げ、グループでの話し合い活動を行うことで、話し合いが苦手な生徒にも活動しやすくする。そして、資料を読み取ったり、自分で考えたりしたことを話し合い、表現させることで言語活動の充実も図りたい。また、身近な題材を通して、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を身に付けさせたい。

3 単元の目標

- (1) 社会生活における物事の決定の仕方、ルールの意義について理解できる。
- (2) 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
様々な集団における物事の決定の仕方、ルールを守ることの意味に対する関心を高め、身の回りの生活と関連付けながら意味を意欲的に追究している。	所属する集団に関わる問題の解決策を対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	ルールの意義を理解するために役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	ルールの持つ意味や、社会では対立が生じた場合、何らかの決定を行い合意に至る努力がなされること、合意の妥当性は効率や公正を基準に判断することを理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の指導計画 (全3時間)

第1次 効率と公正・・・・・・・・・・・・・1時間

第2次 対立から合意へ・・・・・・・・・・・・・1時間 (本時1/1)

第3次 ルールがもつ意味・・・・・・・・・・・・・1時間

次 程	ねらい (第○時)	主な学習活動・内容	資料	評価方法と【評価規準】
第 1 次	社会生活における「効率」と「公正」について、「シングルライダー」の事例を通して考察し、発表させる。 (①)	「シングルライダーに賛成か、反対か」に対するさまざまな意見を考え発表する。	写真 ワーク シート	ワークシートの記述内容から「シングルライダーを通し、社会をとらえる視点や考え方について考えようとしているか」を評価する。 【関】 ワークシートの記述内容から「シングルライダーに賛成か反対かを、『効率』『公正』の視点から考察しているか」を評価する。 【思】
第 2 次	「対立から合意」に至るまでには、「効率と公正」という視点を基準に判断し、自分の考えをまとめさせる。 (本時②)	ゴミ収集の問題を解決するため、どの場所にゴミ収集場所を設置すればよいかを考える。 その場所を選んだ理由を、「効率と公正」という判断基準で説明する。	写真 ワーク シート	ワークシートの記述内容から、「地域のゴミ収集場所について『対立』から『合意』に至るまでに、『効率』と『公正』という視点や考え方を基にして考え、適切に表現できているか」を評価する。 【思】
第 3 次	ゴミ出しのルールについて、資料から問題点を読み取らせる。また、ルールに込められた意味と、ルールの必要性について考え、それを理解させる。 (③)	ごみ出しのルール違反という問題の解決を検討していく中で、きまりやそれを守ることの意味および個人の責任について考える。	写真 ワーク シート	ワークシートの記述内容から、「ゴミ出しのルールについて問題点を読み取れているか」を評価する。 【技】 ワークシートの記述内容から「ルールがもつ意味や、効率と公正、対立と合意の意味について、理解しているか」を評価する。 【思】

6 本時の学習指導

(1) 題材名 『対立から合意へ』

(2) 目標

「対立から合意」に至るまでの過程を，ゴミ収集場所の決定について，「効率と公正」という視点で，ゴミ収集問題について考察することができる。

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
5分	1 前時の学習を振り返る。	○前時に学習した「効率と公正」の概念をおさえる。		
5分	2 徳島市から地域のゴミ収集への要請について理解する。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;">地域のゴミ収集場所を決めよう。</div>				
20分	3 地域住民A～Eの立場になり，どの場所にゴミ収集場を設置するとよいかを考え，班で意見をまとめる。	○班員全員に役割を持たせ，話し合いに参加できるようにさせる。 ○対立点を理解させ，スムーズに話し合いができるようにさせる。		
10分	4 班の代表者が合意案を発表し，それぞれの班の考え方を「効率と公正」の視点から評価し，自分の意見をまとめる。	○「効率と公正」の概念を再度おさえる。	合意できる案について，「効率と公正」という視点から考え，自分の意見をまとめている。	行動観察 ワークシート
5分	5 学習のまとめを行う。	○「対立から合意」に至るまでには，どのように判断すればよいか考えさせる。	【思】	ワークシート
5分	6 本時の自己評価を行う。			

(4) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	合意できる案について，「効率と公正」という視点から多面的・多角的に考え，ワークシートに自分の意見をまとめることができる。 【思】
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	班での話し合いの中で，合意できる案を見つけさせ，ワークシートに自分の意見を書かせる。 【思】